

海外県人会だより 2016年7月21日

郷土の味 祭りで発信

岩手県人会のブースで調理を担当するボランティアの人たち



海外県人会
だより

ブラジル

日系団体最大の祭りとなったブラジル都道府県人会連合会主催の「第19回日本まつり」(フェスティバル・ド・ジャポン)が8、10日、新装されたサンパウロ市のエキスポサンパウロを会場に開かれた。開幕を控

えたりオ五輪や4年後の東京五輪にちなみ、今年のテーマは「スポーツと健康」。東京五輪組織委員会によるおもてなしの「足湯」も設置された。会期中は晴天に恵まれ、昨年を上回る約16万8千人でにぎわった。46都道府県会が参加した食ブースでは、郷土食や自慢のあらゆる「食」が提供された。各ブースには長蛇

の列ができ、テーブルは郷土食を味わう人たちで埋まるほどの人気だった。

芸能ステージもあり、日系団体の約40種類の芸能が披露され、日系人の美を競うミスコロナの選出もあった。場外には「盆踊り特設舞台」が設置され、さまざまな盆踊りや団体芸能を堪能できた。

岩手県人会は、長年出品している岩手産ワカメを使用した「三陸わかめうどん」が目玉。わかめソバ、コロケ弁当、コロケ(ブラジル特産のキャッサバを用)、ギョーザの5品目でほとんどを売り上げた。毎回、物品搬送、調理係、準備の裏方、来客対応と毎日30人近くのボランティアによって運営しており、皆さんに感謝している。

祭りを振り返ると21年前、岩手県人会とほか3県人会青年部合同による「寿司まつり」が始まりだった。寒い時期であり、温かい岩手の郷土料理「けんちゃん汁」を提供して喜ばれたことが記憶に新しい。当時の連合会会長がけんちゃん汁を賞味し「寒いときは温

まる」と話していたことが忘れられない。

その後、各県に「おいしい郷土料理」があるとヒントを得て、連合会役員会や各県人会に諮った結果、イビラプエラ公園の特設会場で「郷土食祭り」を開くことができた。記憶は定かでないが、数万人の集客だった。以後回を重ね、いまや日系団体最大の祭りになるまで発展した。

(ブラジル岩手県人会会長・千田曠曉さん＝金ヶ崎町出身)